



巴工業株式会社

株主、投資家のみなさまへ

# TOMOE REPORT Vol.36

## 第89期 第2四半期決算のご報告

2017年11月1日 ▶ 2018年4月30日

### CONTENTS

ビジネスアウトライン	01
連結決算ハイライト	03
トップメッセージ	05
担当役員が語る	09
連結財務諸表	11
会社情報	13
株式情報	14

私たち巴工業の二つのコアビジネスは、遠心分離機を中心とする分離機器の製造販売（機械事業）、化学工業製品を中心とした先端商品の輸入販売（化学品事業）です。この両事業がそれぞれの特長を活かし、成果を競いながら、安定した業績を支えてきました。そして現在、両事業は多様化するニーズに応え、海外とのパイプを太くしながら、その活動領域を広げています。



# 高い技術と優れた製・

機械事業は、遠心分離機を中心とした各種分離機や応用装置、あるいは関連機器の製造・販売を行っています。日本における遠心分離機のパイオニアとして、日本の多くの産業に貢献してきました。

### 機械事業

Machinery & Equipment Div.

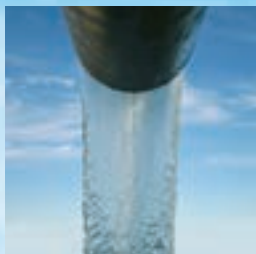
#### 戦略

機械事業は生産の合理化、コスト競争力の強化、国内外の新たな市場展開により、収益力の向上を図ります。

あなたの近くで巴工業は活躍しています。

#### 下水処理

下水処理プロセスに幅広く対応した製品を提供しています。水を活かし、自然と共生できる生活環境づくりに貢献しています。



#### 化学工業製品

ペットボトルの原料を生産する工程にも導入されています。また、廃棄物中のプラスチックなどを選別して再資源化に貢献しています。



#### 食品

調味料の製造や魚介類の加工など様々な食品類の製造プロセスで利用されています。



#### 下水関連

#### リサイクル関連

#### 石油化学関連

#### エネルギー関連

#### 食品・医薬品関連

#### 紙パルプ・その他

# 商品を提供し、社会に貢献

## 化学品事業

Chemical Products Div.

化学品事業は、合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびに関連製品・加工品の輸出入および販売を行っています。

### 戦略

化学品事業は、「輸入商材、ハイテク、環境」をキーワードに高付加価値であり、また巴工業にふさわしい商品の開発を目指して行きます。

あなたの近くで巴工業は活躍しています。

#### シリカフェーム

コンクリートに混ぜることで強度を従来の10倍以上に高められる特性から、超高層ビルの柱や新幹線のトンネル、飛行場の滑走路などで使用されています。



#### 樹脂

CD盤面の原料、OA機器の部品など、それぞれの用途にあった様々な樹脂を取り扱っています。



#### 添加剤

自動車用塗料、建築用塗料、印刷インキ、木工・家具用塗料などに様々な特性を与える添加剤として多くの実績があります。



合成樹脂関連

機能材料関連

工業材料関連

電子材料関連

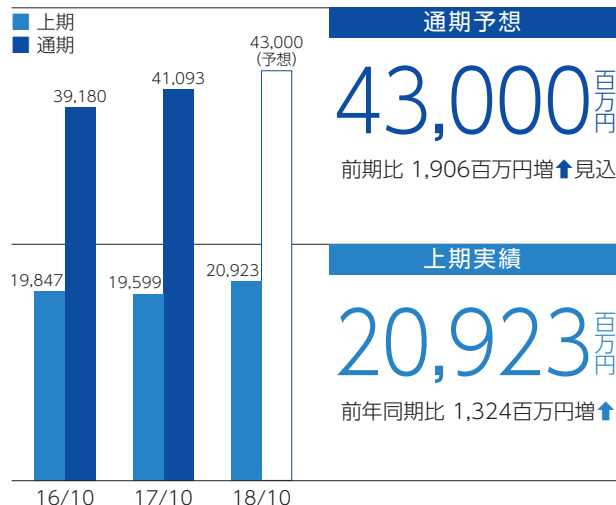
化成品関連

その他

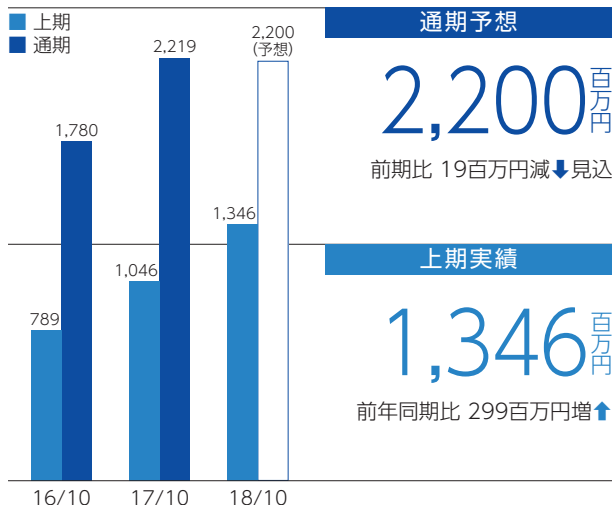


# 連結決算ハイライト

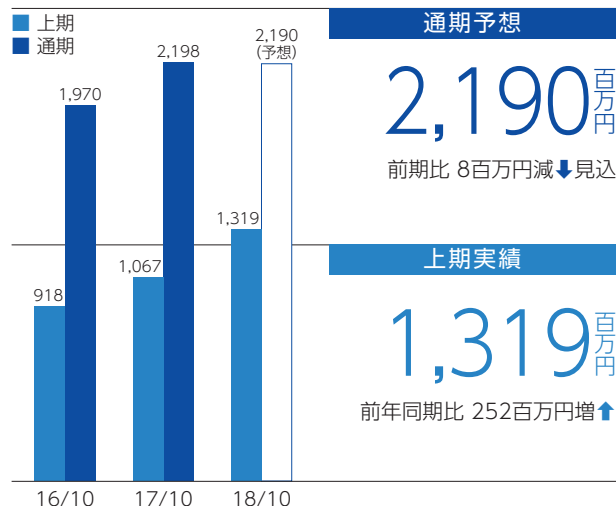
## 売上高 (単位：百万円)



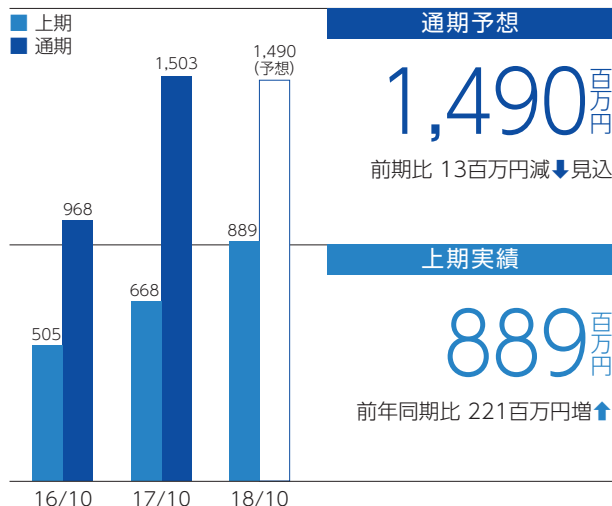
## 経常利益 (単位：百万円)



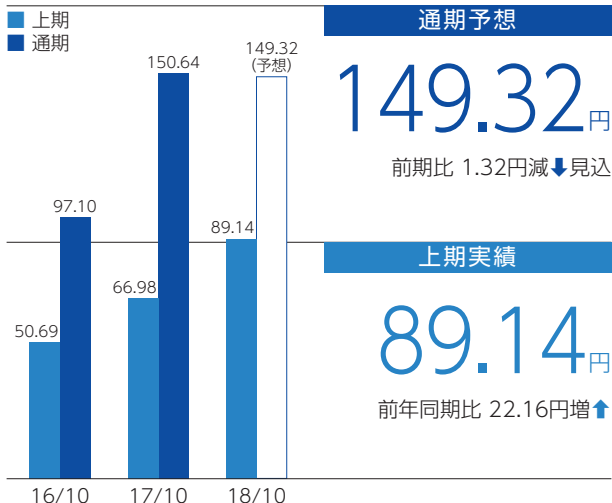
## 営業利益 (単位：百万円)



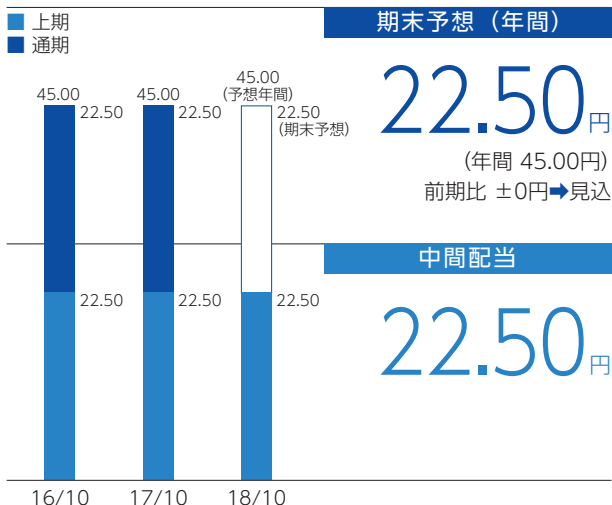
## 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益 (単位：百万円)



## 1株当たり当期(四半期)純利益 (単位:円)



## 1株当たり配当金 (単位:円)



## 決算のポイント

### 売上高

機械事業、化学品事業ともに増収となり、全体では前年同期比6.8%増の209億23百万円となりました。機械事業では国内向けを中心に販売が増加したほか、化学品事業では工業材料分野、機能材料分野、電子材料分野を中心に販売が増加しました。通期では、機械事業、化学品事業ともに増収となる予測から前期比4.6%増の430億円を見込んでおります。

### 営業利益

機械事業、化学品事業とも増益となり、全体では前年同期比23.6%増の13億19百万円となりました。機械事業では国内官需向けを中心とした機械販売の収益性向上、および装置・工事と部品・修理販売の増収効果により増益となり、化学品事業では収益性の良い商材の構成比率が高い工業材料分野、電子材料分野および機能材料分野の増収を背景に増益となりました。通期では、化学品事業が増収による増益を見込むものの、機械事業が下期における低利益率案件の増加により減益を余儀なくされるため、前期比0.4%減の21億90百万円となる見込みです。

### 経常利益

営業利益の増加に加え、為替差益を計上したことから全体では前年同期比28.6%増の13億46百万円となりました。通期では、営業利益が減益を見込むことを受け前期比0.9%減の22億円を見込んでおります。

### 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

経常利益の増加を受け前年同期比33.1%増の8億89百万円となりました。

通期では、特別損益に特殊要因等を見込まないことから前期比0.9%減の14億90百万円を見込んでおります。



# トップメッセージ

## 社長に聞く

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社2018年10月期第2四半期連結累計期間（2017年11月1日から2018年4月30日まで）が終了いたしましたので、ここに第2四半期連結決算の概況と今後の取り組みについてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **山本 仁**



Q

当第2四半期連結累計期間の  
事業環境と経営成績について  
お聞かせください。

A

国内経済は、輸出の伸びの鈍化や設備投資と個人消費の減少を背景にやや減速傾向にあるようです。一方、海外経済は、米国経済が拡大基調を保つなど全体的には堅調に推移しています。

このような環境の中、当社グループの機械事業は、国内官需向け部品・修理や、国内民需向け機械

の販売などが伸長したことから、売上高は前年同期比8.6%増、営業利益は同37.6%増となりました。化学品事業では、住宅・建設市場向けの材料や半導体製造用途向け商材などの販売が好調で、売上高は前年同期比6.2%増、営業利益は同19.2%増となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高が前年同期比6.8%増、営業利益が同23.6%増、経常利益が同28.6%増、親会社株主に帰属する四半期純利益が同33.1%増となりました。

Q

## 中期経営計画の状況について お聞かせください。

A

現在当社が取り組んでいる3カ年中期経営計画「Challenge for Change ～変革への挑戦～」は、残り一年半の折り返し点を迎えました。この計画は、あえて高い業績目標を掲げることせず、生産手法や商品開発の抜本的な見直しなどを通じて収益基盤を徹底的に強化することを重視しています。誤解を恐れずに申し上げれば、「目先の売上や利益に直結しないことをやるための期間」です。これまでの常識を疑い、まったく新しいことに挑戦していくことで、大きな変革を起こし、それを将来の成長のエネルギーへと結びつけたいと考えています。

こうした意味で、とくに大きく変わりつつあるのが化学品事業です。4月に化学品本部に「開発部」を新設しました。当社が主体的に新たな商材を開発していくという姿勢を鮮明にし、予算もしっかりと確保しました。「お客様が求めたものを用意する」という従来の姿勢から脱却し、当社から積極的に新たな商材を発掘し、提案していくというスタイルへの変革です。営業担当者たちは新しいビジネススタイル

に苦しみながらも、その楽しさも十分に味わい、必死に駆け回ってくれています。意識改革は十分に進んでおり、その成果が現れるのに時間はさほどかからないと期待しています。

一方、機械事業については、生産手法の抜本改革、在庫の徹底的なスリム化などで成果をあげていますが、化学品事業に比べると変革にやや時間がかかっている印象を受けます。もちろん、商社的なビジネスである化学品事業と、一品ものの特殊な機械を受注生産している機械事業を同じ時間軸で考えることはできませんし、長年かけて培ってきたノウハウや技術を安易に否定することはできません。しかし、今までと同じビジネスのやり方に安住することは決して許さず、新しいことに挑戦していく姿勢を厳しく求めていこうと考えています。

海外では、中国現地法人である星際塑料（深圳）有限公司のコンパウンド事業が工場移転後の再構築により、ようやく軌道に乗ってきました。自動車向けのハイエンド商材などが好調で、すでに黒字体質が定着しており、将来的なプロフィットセンターとして期待できる状況にまで成長してきました。順調に成長しているタイ現地法人と合わせ、重要課題である海外市場の開拓にも引き続き注力してまいります。

# トップメッセージ

## 社長に聞く

Q

通期の業績見通しをお聞かせください。

A

事業環境は今後も大きく変わることはない  
とみており、通期の業績については、売上  
高が前期比4.6%増、各段階の利益は前期からほぼ

横ばいになると予想しています。上期の経営成績が  
期初の計画を上回ったことを受け、通期の業績予想  
も若干ではありますが上方修正しております。

機械事業では、このところ安定した収益源となっ  
ている国内外での部品販売、修理サービスに注力し  
ていくことに加え、中国の石油化学プラント向け、

### 中期経営計画 (2016年11月~2019年10月)

### 「Challenge For Change ~変革への挑戦~」

#### 基本方針

当社グループを取り巻く経営環境が激しく変化中、これに対応し得る機動性や俊敏性を養い且つこれまで培ってきた経験や知識を最大限活かし新たな取り組みに積極的に挑戦し、さらに一層の収益基盤の強化と効率的経営の実践により持続的な企業価値創造を目指すことを基本方針とします。

#### 業績計画

機械事業では、東南アジア市場や中国市場を中心とする海外市場への販売拡大と国内官需向け低動力型高効率遠心分離機の一層の拡販及び国内民需向け石油化学、排水他分野への販売強化を主な戦略とします。  
化学品事業では、第87期に設立したタイ現地法人を軸に東南アジア市場を中心とする海外売上高の拡大及び既存事業の深耕拡大と付加価値の高い機能的商材や顧客の開拓による事業規模拡大を主な戦略とします。

#### ■ 数値目標 (単位:百万円)

	第90期計画		
	機械	化学品	合計
売上高	12,000	34,000	46,000
営業利益	600	1,400	2,000
経常利益	—	—	2,000
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	1,300

#### 重点施策

- ① グローバル化推進を継続
- ② 経営資源を有効活用し、事業の選択と集中を推進
- ③ 将来の成長に資する投資案件開拓
- ④ 経営基盤の強化
- ⑤ 収益向上により、資本効率や資産効率の改善
- ⑥ グローバル化に対応可能な人材及び将来経営を担う人材の育成強化





米国での医療・食品関連施設向け機械の新規受注を獲得していきたいと考えています。化学品事業では、オリンピック関連で建設関連需要が引き続き高水準に推移するとみており、こうした分野に向けた工業材料を伸ばすほか、急成長する自動運転関連市場向けの商材の販売にも注力する方針です。また、両事業ともに、中期経営計画の大きな成果として紹介できそうな新機種・新商材の開発が進んでおりますので、ぜひご期待いただければと存じます。

Q

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、当期の中間配当金につきましては、1株当たり22円50銭とさせていただきます。期末配当金も同額を予定しており、年間配当金は前期と同額の1株当たり45円となる見通しです。

私は、巴工業を「強くて正しい会社」にしたいと考えています。「強さ」とはすなわち、収益性であり、商品力の強さであり、そして当社で働く一人ひとりの強さでもあります。私は、巴工業はもっともっと強くなれると確信しており、そのためには社内で嫌われ者になってでも、必要な変革を実行していかねばならないと覚悟を決めております。また、もう一つの「正しさ」とは、コンプライアンスやコーポレートガバナンスを重視するという企業文化の醸成ですが、ここ数年で従業員一人ひとりの意識も非常に高まっていると自負しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



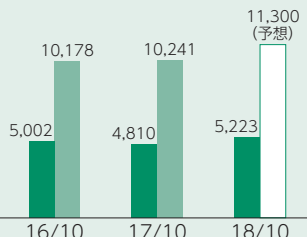
常務取締役  
機械本部長 本間義人

売上高

5,223 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期

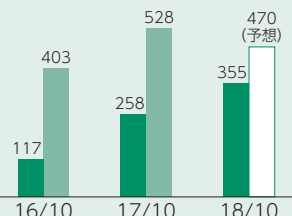


営業利益

355 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期



業績

**機** 械事業の第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を8.6%上回る52億23百万円となり、部門別に見ても官需、民需、海外すべての部門において増収となりました。民需部門においては、半導体関連向け砥粒回収装置や化学工業向け遠心分離機など機械および装置・工事の販売が伸長しました。官需部門においては、機械、装置・工事が前年を下回りましたが、下水処理場向け大型遠心分離機の改良・補修工事や整備工事などを堅調に受注することができ、部門全体では増収となりました。海外部門は売上が前年同期並みでしたが、北米およびアジア地域向けに医薬・食品分野や化学工業分野への機械販売が堅調です。特にアジア地域においては、下水処理場向けや工場排水処理関連に機械および装置・工事を受注し、また部品・修理についても順調に受注しました。

営業利益は、売上高の増加とともに利益率の改善もあり、前年同期比37.6%増の3億55百万円となりました。

展望

**2** 018年10月期通期の売上高は前期比10.3%増の113億円、営業利益は同11.0%減の4億70百万円を見込みます。売上高につきましては、民需部門では、装置・工事および部品・修理が大幅に増収となる見込みで、景気の回復基調を反映し化学工業向け機械、食品・医薬向け機械を順調に受注する見込みです。特に半導体関連向け砥粒回収装置の増加により装置・工事の大幅な増収を見込みます。官需部門では下水処理場向け大型案件をはじめとした高効率型遠心脱水機、回転加圧脱水機等の受注により増収となる見込みであり、部品・修理は前期並みに推移する見込みです。海外部門では、化学工業分野、食品分野等アジア地域での機械販売が好調で、北南米においては食品・医薬向けが増収となる見込みです。装置・工事では砥粒回収装置、炭化装置の販売で増収を見込み、部品・修理は前期並みに推移する見込みです。営業利益については、各部門とも増収となるものの、販売管理費の増加により前期に対して減益となる見込みです。

当社は、引き続き国内外の営業力の向上により顧客と新規需要の開拓を図り業績の拡大に努めてまいります。

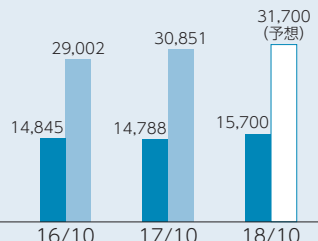


常務取締役  
化学品本部長 **玉井章友**

売上高 **15,700** 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期

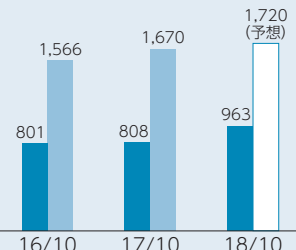


営業利益

**963** 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期



## 業績

**化** 学品事業の第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比6.2%増の157億円となりました。国内の旺盛な需要に後押しされ当事業においても自動車、半導体、建築・土木を始めとした様々な産業で各製・商品の荷動きが活発となり、ほとんどの部門で昨年の売上実績を上回る好結果となりました。また海外子会社も昨年と比較して売上を伸ばしており、これら国内外の好調な販売を要因として化学品事業全体として売上増に繋がりました。商品グループ別に見ますと、合成樹脂関連は輸入材が好調だったものの、国内汎用樹脂販売の一部が低調となりました。工業材料関連は自動車、建築・土木向けを始めとして各商材の販売が好調を維持、化成品関連ではUV硬化樹脂などインキ・塗料向け原材料が好調でした。機能材料関連では半導体製造装置に使用する部材の販売が好調であり、電子材料関連も半導体搬送用材料および半導体後工程部材の販売が好調でした。また営業利益につきましても、上述の通り国内外各部門での好調な販売が寄与しており、前年同期に対して19.2%増の9億63百万円となりました。

## 展望

**2** 018年10月期通期の売上高は前期比2.8%増の317億円、営業利益は同3.0%増の17億20百万円を見込みます。国内需要は引続き旺盛と予想されることから各部門ともに順調な販売を見込んでおります。一方で好調なグローバル経済を背景とした原材料の高騰や供給不安、中国環境規制強化による仕入れ先の操業停止など、既に一部の製品ではその影響を受け始めています。これらの影響は当面続くものと予想されますが、化学品事業は多用途向けに様々な原材料を取り扱っているため市場環境の変化に対応できる強みがあります。現在取り扱っている商材をコアビジネスとして各部門での販売を更に強化していきます。また4月に新設した開発部では今後成長する分野への資源投入とともに、新商材開発、新サプライヤーの開拓も併せて行い、将来の基盤造りを進めてまいります。海外では中国深圳コンパウンド事業も工場移転後、開発案件が伸び、業績の改善が進んでおります。引き続き化学品事業の業績拡大に努めてまいります。

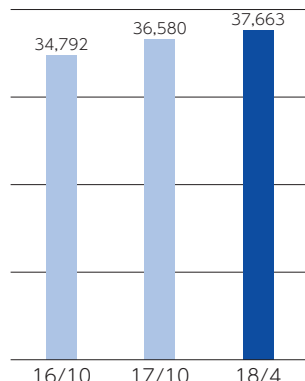
## 第2四半期連結財務諸表

### 四半期貸借対照表

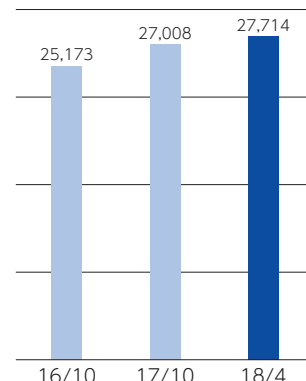
(単位：百万円)

科目	前期末 (17/10)	当第2四半期末 (18/4)	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	27,648	28,756	1,107
固定資産	8,932	8,906	△25
有形固定資産	5,163	5,125	△37
無形固定資産	186	148	△38
投資その他の資産	3,582	3,633	50
資産合計	36,580	37,663	1,082
<b>負債の部</b>			
流動負債	8,193	8,561	367
固定負債	1,378	1,387	8
負債合計	9,572	9,948	376
<b>純資産の部</b>			
株主資本	26,070	26,735	664
資本金	1,061	1,061	—
資本剰余金	1,483	1,483	—
利益剰余金	23,889	24,554	664
自己株式	△363	△363	—
その他の包括利益累計額	938	979	40
その他有価証券 評価差額金	551	571	20
繰延ヘッジ損益	2	3	0
為替換算調整勘定	214	199	△14
退職給付に係る 調整累計額	170	204	34
純資産合計	27,008	27,714	705
負債及び純資産合計	36,580	37,663	1,082

### 総資産 (単位：百万円)



### 純資産 (単位：百万円)



### 資産、負債及び純資産の状況について

当第2四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金が9億32百万円減少した一方、電子記録債権の13億23百万円増加および商品及び製品の4億70百万円増加などにより、前連結会計年度末に比べ10億82百万円(3.0%)増加し376億63百万円となりました。

負債は、賞与引当金が2億38百万円減少した一方、電子記録債務の4億43百万円増加および前受金の1億62百万円増加などにより、前連結会計年度末に比べ3億76百万円(3.9%)増加し99億48百万円となりました。

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ7億5百万円(2.6%)増加し277億14百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少して73.6%となっています。

## 四半期損益計算書

(単位：百万円)

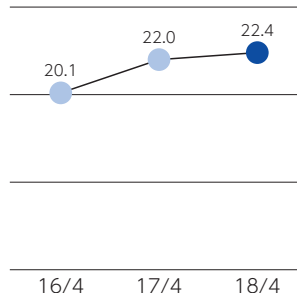
科目	前第2四半期 累計期間 (16/11~17/4)	当第2四半期 累計期間 (17/11~18/4)	増減額
売上高	19,599	20,923	1,324
売上原価	15,286	16,246	959
売上総利益	4,312	4,677	364
販売費及び一般管理費	3,245	3,358	112
営業利益	1,067	1,319	252
営業外収益	20	53	32
営業外費用	40	26	△14
経常利益	1,046	1,346	299
税金等調整前四半期純利益	1,046	1,346	299
法人税等	378	456	78
四半期純利益	668	889	221
親会社株主に 帰属する四半期純利益	668	889	221

## 四半期キャッシュ・フロー計算書

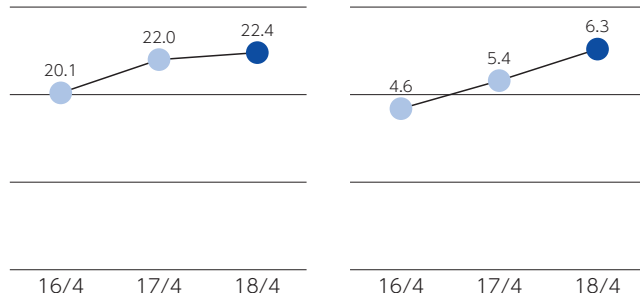
(単位：百万円)

科目	前第2四半期 累計期間 (16/11~17/4)	当第2四半期 累計期間 (17/11~18/4)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	430	294	△135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,029	△2,125	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	△224	△224	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	72	△48	△121
現金及び現金同等物の増減額	△1,751	△2,104	△353
現金及び現金同等物の期首残高	8,056	7,893	△162
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,304	5,788	△516

## 売上総利益率 (単位：%)



## 営業利益率 (単位：%)



## キャッシュ・フローの状況について

### POINT ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が13億46百万円となり、仕入債務の増加3億39百万円および前受金の増加1億63百万円となった一方、たな卸資産の増加8億52百万円、売上債権の増加4億17百万円および法人税等の支払3億92百万円などにより、2億94百万円の収入（前年同四半期連結累計期間比1億35百万円の収入の減少）となりました。

### POINT ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入による支出20億円および有形固定資産の取得による支出95百万円などにより、21億25百万円の支出（前年同四半期連結累計期間比96百万円の支出の増加）となりました。

### POINT ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払い2億24百万円により、2億24百万円の支出（前年同四半期連結累計期間とほぼ同額）となりました。



## 会社概要

商号	巴工業株式会社
本社所在地	東京都品川区北品川五丁目5番15号
設立	1941年5月29日
資本金	10億6,121万円
従業員数	715名（連結）、382名（単体）
主な事業内容	<p>機械事業 遠心分離機はじめ各種分離機および応用装置・関連機器の製造・販売ならびに一般機器・装置類の販売</p> <p>化学品事業 合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびにこれらの関連製品・加工品の輸出入および販売</p>
ホームページ	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>

## 役員一覧

代表取締役社長	山本 仁
常務取締役	本間 義人
	深沢 正義
	玉井 章友
取締役	大橋 純
	篠田 彰鎮
	中村 政彦
	矢倉 敏明
	伊藤 勝彦
	東 徹行
	取締役（監査等委員）
	村瀬 俊晴（社外取締役）
	今井 實（社外取締役）
	中村 誠（社外取締役）

## グループネットワーク

- 機械事業
- 化学品事業

昆山事務所  
巴栄工業機械（上海）有限公司

星際塑料（深圳）有限公司  
巴恵貿易（深圳）有限公司

TOMOIE Trading (Thailand) Co.,Ltd.

巴工業（香港）有限公司  
星際化工有限公司

ジャカルタ事務所

ソウル支店

巴工業株式会社本社  
大阪支店  
札幌営業所  
仙台営業所  
名古屋営業所  
福岡営業所  
サガミ工場  
湘南工場

Tomoe Engineering USA, Inc.

巴機械サービス株式会社  
巴マシナリー株式会社  
巴物流株式会社  
巴ワイン・アンド・スピリッツ株式会社

## 株式情報

発行可能株式総数	24,550,000株
発行済株式の総数	10,533,200株
株主数	8,223名

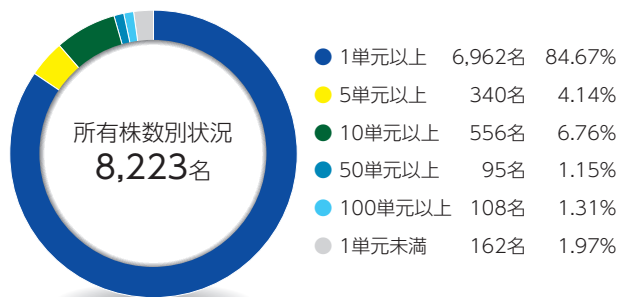
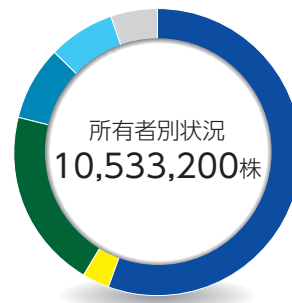
## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
巴工業取引先持株会	527	5.00
佐良直美	406	3.85
野田眞利子	397	3.76
(株)みずほ銀行	392	3.72
山口温子	314	2.98
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	313	2.97
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	292	2.77
巴工業従業員持株会	265	2.52
(有)巴企画	245	2.33
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	206	1.95

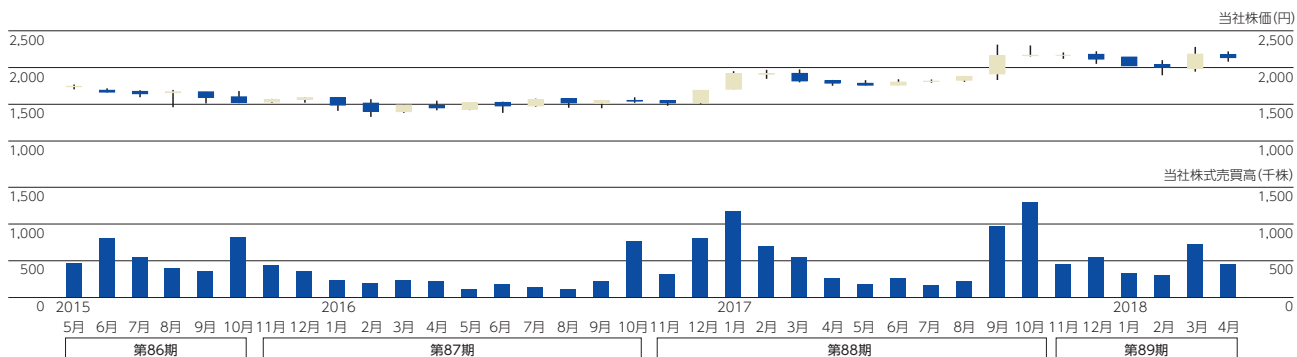
(注) 1.所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2.上記のほか当社所有の自己株式554千株(5.27%)があります。  
 3.上記日本マスタートラスト信託銀行(株)および日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式は、全て信託業務にかかるものです。

## 株式分布状況

● 個人・その他	5,855,589株	55.59%
● 証券会社	334,554株	3.18%
● 金融機関	2,136,800株	20.28%
● その他の国内法人	879,128株	8.35%
● 外国法人等	772,312株	7.33%
● 自己株式	554,817株	5.27%



## 株価チャート



# 株主メモ

決算期	毎年10月31日
証券コード	6309
1単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当 毎年10月31日 中間配当 毎年 4月30日
公告方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載アドレス	<a href="https://www.tomo-e.co.jp">https://www.tomo-e.co.jp</a>
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)

## 株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的として株主優待制度を設けております。



写真は前年度の優待品で実際とは異なる場合があります。

### 対象となる株主様

毎年10月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上保有の株主様

### 優待内容

ワイン（当社関連会社取扱商品）1本を贈呈

### 贈呈の時期

毎年12月下旬に送付



**巴工業株式会社**

〒141-0001

東京都品川区北品川五丁目5番15号

URL <https://www.tomo-e.co.jp>

本報告書には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



UD FONT